



Japan
Food
Research
Laboratories

試験報告書

第 407060453-003号

2007年(平成19年)07月17日

依頼者 株式会社 なかはら

検体 日田温泉水(クレーム品)

表題 カビの同定

2007年(平成19年)06月27日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番
彩都研究所 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目4番41号

カビの同定

1 依頼者

株式会社 なかはら

2 検体

日田温泉水(クレーム品)

3 試験目的

検体に見られる浮遊物から分離されたカビについて属の同定を行う。

4 試験概要

検体の異物検査(試験報告書第407060453-001号)で浮遊物から分離されたカビ(以下「分離カビ」という。)をポテトデキストロース寒天平板培地及びポテトキャロット寒天平板培地に接種し、25℃で5日間培養した。培養後、生育したカビについて集落の色調及び組織、分生子形成構造等の観察を行い同定した。

5 試験結果

分離カビは*Ochroconis*属のカビと同定された(写真-1)。

*Ochroconis*は不完全菌類の一属で、集落は褐色～オリーブ色を呈し、ピロード状～縄状になる。分生子形成構造はシンポジオ型で、分生子は0～3個の隔壁を有し、滑面～粗面、円筒形～棍棒状となる。世界中に広く分布し、土壌、植物等からの分離例がある。また、調査した文献には通常問題とされるマイコトキシン(カビ毒)産生能についての報告例はなかった。



写真-1 分離カビの分生子形成構造の一例(微分干渉, ×790)
[ポテトキャロット寒天培地]

以 上